

シンポジウム

いのちを守る

11月 8日(土)14:40-17:50 司会 渡辺和子 東洋英和女学院大学教授
死生学研究所所長

〈I いのちでつながる〉

発題 1

西洋子

本学人間科学部教授

TEAWASE：表現で出会う・表現でつながる

宮城県石巻市で、身体で共に表現する「手合わせ」の活動を続けています。月に1度の小さな試みですが、現地の子どもたちや家族、先生方、関東から参加する人々が表現で出会うつながり合うことで「私たち」という新しい世界が生まれ、その中でさまざまな変化が起きています。

発題 2

三輪敬之

早稲田大学理工学術院教授

共創：ともに居場所をつくる

震災からの復興において必要なことは「共創」による居場所づくりです。私たちは失われた居場所を身体表現によって共に耕していくことから始めました。そこから芽生えてきた居場所の物語を紹介します。

〈II 被災地の子どもたちといのち〉

発題 3

今野祐子

栃北上の郷児童福祉サービスみらい管理者

いのちに寄り添う

震災で当たり前の日々が一瞬にして奪われました。生活は大きく変わり、特に障害のある子どもたちは、受け止めなければならない現実の中で様々な葛藤を抱えています。そんな子どもたちに寄り添い、成長を願う児童デイサービス「みらい」の日々をご紹介します。

発題 4

戸田祥子

小学校教諭 石巻市

教師としての3年8ヶ月と保護者としてのこれまで…

自閉症の息子と過ごした避難所でも、スーパーの行列に並んだ時も、全国の友達から支援を受けた時も、感謝の気持ちでいっぱいになりました。担任をした特別支援学級の子どもたちもそれぞれに厳しい環境の中頑張っています。今年度から被災した学校に転任になり、自分にできることを考える日々です。

〈III いのちとは〉

発題 5

塩沼亮潤

仙台市秋保 慈眼寺住職

忘れて捨てて生きる

私達が人生をよりよく生きるためには少しばかり我慢とか辛抱とかと感ずることを克服しなければならない時期があります。しかし、それを乗り越えてみると、真に生きる素晴らしさや喜びに満ちあふれ、今まで不自由ととらえていた世界から光ある世界に人生がかわります。大峯千日回峰行という大自然の中での修行を通じて得た世界感を現代に生きる人達にわかりやすくお伝えさせていただきます。

□シンポジウム会場
東洋英和女学院大学大学院
(六本木) 201教室
東京都港区六本木5-14-40
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分)
□参加費1,000円(本学院在校生・教職員無料)
□当日先着順100名様 □事前申込み不

〈予告〉2015年1月17日(土)連続公開講座「生と死の語りⅡ」

第5回 Miriam T. Black :The Use of Narrative in Neuropsychological Evaluation:
A.R.Luria's Study of a Mnemist (日本語訳有)

第6回 宮嶋俊一「水俣病事件とその語り」